

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒それぞれの夢を育て実現させる学校
--------	---------------------------

重点目標	1 確かな学力の育成と指導力向上 2 進路指導の充実、進学実績の向上 3 生徒指導、特別活動の充実・推進 4 地域に根ざし、信頼される学校づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	朝学習や小テスト、復習シートの活用等によって知識の定着は進みつつあるが、1日1時間未満の学習時間の生徒が大半を占める。生徒の学習意欲・学力向上のために教員の指導力向上と授業展開の工夫が必要である。さらに授業アンケートの活用、授業公開・研究協議を通じた授業改善が課題である。	○授業改善と授業力の向上 ○家庭学習の定着	①授業アンケートの活用。教科間を越えた授業公開・研修会を実施し生徒の主体的活動を引き出す授業を行う ②朝学習、週末課題の実施。復習シートの活用等により自主的学習を展開する。 ③学習状況改善へ向けた環境整備の研究を行う。 ④学年を中心とした計画的な学力向上・検定合格に向けた学習体制を確立する。	①ALの手法を活かした授業の展開ができたか 授業理解度・満足度 80%以上 ②家庭学習時間 1.5 倍増 ③新しい学びの形を支えるためのICT等環境整備計画の策定。 ④英検・漢検 3 級全員合格。			
2	進路意識が低く「なんとなく・これでいい」といった進路選択をしている生徒も少なくない。保護者の意向も含め「こうしていきたい」というワンランク上の前向きな進路選択をさせるためにも、進路先の実態把握、研究が必要である。入学時からの計画的な進路指導、保護者会・職員研修会の実施等、3年間を見通した進路指導計画の策定・実行が急務である。	○進路意識の啓発 ○組織的進路指導の充実 ○個に応じた進路指導の充実	①3年間を見据えた新進路指導計画を策定・実施する。 ②進路ガイダンスや教員勉強会、研修を実施する。 ③保護者参加型の進路行事を企画・実施し、保護者に対しても啓発活動を行う。	①進路決定率 95%以上。就職内定率 100% ②将来の希望進路決定者 1,2 年生 90%。3 年生 100%。 センター試験、一般受験、公募推薦受験者数 30 名。四年制大学進学者 70 名。 ③進路指導が充実していると考えられる保護者 80%。			
3	継続的な生徒指導の成果で落ち着いた学校となったが、自己の気持ちのコントロールや努力の継続性、挑戦する意欲はまだ乏しい。落ち着いた生活基盤は継続しつつ、「挑戦・自律・継続」できる力を育成する必要がある。また、部活動や生徒会・ボランティア活動を通じた、コミュニケーション能力・リーダー層の育成も課題である。また、海外修学旅行だけでなく、教育活動全般を通じて、多文化交流の機会を設け、広い視野を持った人材の育成が重要である。	○自律による自己管理と挑戦する意欲の喚起 ○特別活動の充実	①学校全体で、基本的生活習慣の定着を組織的に取り組む。チャイムレスの活用による自立心の向上。 ②他校との交流を深め、挑戦する意識・意欲を向上させ、部活動を活性化させる。 ③生徒主体で学校行事を企画運営することで生徒の参画意欲を高める。 ④グローバル教育を推進し(台湾復興実験高級中学との交流、ユネスコのプログラム等)、国際社会で活躍できる人材を育成する。	①遅刻率 1.0%未満。進んで挨拶する生徒 75%以上。 ②部活動加入率 90%。県大会以上の出場者・チームの増加。『庄和』の冠をつけた大会・交流会の実施 ③生徒会が中心となり発案企画した取組の実施。 ④多文化交流事業の実施。			
4	地元小中学校をはじめ、地域機関との連携を深め、本校の特色、魅力、生徒の良さを積極的に発信する必要がある。学校説明会の内容や学校案内配布方法を工夫し、本校の教育活動を広くPRするような生徒募集活動が課題である。HPやメディアも活用し、開かれた学校づくりを推進する。また、保護者、地域、卒業生と協働した行事の実施により関係者が誇れる学校にする。	○保護者、地域、卒業生との協働 ○学校情報の効果的発信	①学校の魅力発信の工夫・研究を行う。積極的な地域貢献活動により本校生徒の良さを地域にアピールする。 ②生徒・在校生保護者の協力による学校説明会を実施する。内容や実施時期を検討し、参加者数を増加させる。 ③HPやメディアを積極的に活用し、情報発信する。	①授業公開、体育祭公開の来校者数 300 名以上。 地域との交流、ボランティア協力 30 事業以上。 ②学校説明会の中学生の参加数合計 1,000 名以上。 ③HPの更新数 100 回以上。アクセス数平均 700 件/ 日。			

学 校 関 係 者 評 価			
実施日	平成	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等			